

# ふじえだ教師塾



## 「大学生・大学院生」の閉講式を行いました

「大学生・院生」23名の閉講式が7/22（土）に行われました。昨年の後期（10月）から本年度前期までの約1年間、演習を重ね、一人一人が大きく成長することができました。

閉講式では教育監から「教師の仕事はやりがいのある仕事ですが、楽な仕事ではない。子どもは十人十色、一人一人ちがう。子どもを理解した上で、その子が一步前に進める、自己実現できる方法を考える。子どもの小さな変化、事実を見取り、また次の一手を考える。その積み重ねが成長となる。教育に特効薬はない。諦めないで、粘り強く取り組むことが大切。その子の人生の短い期間ではあるが、その子の成長にかかわることができることは教師冥利に尽きる。皆さんは教師塾で大学ではできない学びがあり、学ぶことが楽しかったと思う。学ぶことそれ自体が楽しいと子どもたちに伝えてほしい。」と励ましのお言葉をいただきました。教育監からお話をうかがい、塾生もさらに教職に就きたい、子どもたちの成長にかかわりたいという思いを強くすることができました。

今までの演習（講話や面接指導等）では、多くの先生方にご協力いただきました。ありがとうございました。なお、令和5年度「大学生・院生」後期の募集を8/1～10/13まで行い、10/21（土）に開講式を行います。教育実習性等、教職をめざす大学生・院生への教師塾のご紹介、声掛けをよろしく願いいたします。

### 大学生の感想（教師塾を振り返って、学んだこと等）



・ふじえだ教師塾に入塾し、藤枝の教育の魅力について多くの事を知り、学ぶことができました。藤枝で小中と教育を受けてきて、今度は教育を行う立場で学ぶことができ、先生方の素晴らしさ、先生という仕事の魅力を改めて感じました。ふじえだ教師塾での講座はどれもとても勉強になり、ワクワクしながら参加させていただきました。特に教師塾で出会った仲間との話し合いの時間は自分の視野や考えが広がりました。その時間がとても好きでした。本当に楽しく教師という仕事を学ばせていただきました。これからも学び続けていきたいと思えます。

・教師塾に入って面接練習をできたことが一番良かったと思っています。現職の校長先生からいただいたアドバイスがとても明確でわかりやすく、また、質問内容のいくつかは実際に一次試験で聞かれたので本当にやっていて良かったと思いました。また、教職実践演習では、様々な意見を聞くことで自分の考えを深めることができたり、ホワイトボードにまとめる際に見やすくなるよう書き方の工夫をしたりと多くの事を学ぶことができました。

・私は途中から教師塾で学ばせていただきましたが、その数回の間でも自分の成長が感じられ、とても良い時間になりました。また、一緒になって教員を目指す友だちが増えることも励みとなりました。私は毎回教師塾へ来る度に、自分にはない教育観や考えを得られることがとても刺激的で、楽しくて仕方ありませんでした。そしていろいろな先生方の経験や考えを聴くと本当に奥が深いやりがいのある仕事だなと思い、私もやっぱり教員になりたいと強く思いました。私も子どもを愛し大切に、子供が自分から動き出したいくなるような学校が作れる教員になりたいと思えます。子どもたちとともに学び、成長し、たくさんの思い出を作っているまでも生き生きとした教員になれるようこれからもがんばります。

## 村田久典先生、仁藤眞理子先生の講話を聴き、学びました

### 村田先生ご講話(大学生閉講式にて)



- ・学校って何を学ぶところですか 自己指導力を学ぶ
- ・生徒指導ってどんな指導ですか 自己決定の大切さ 自己指導力を育てる
- ・授業の主たる目的は  
新しい知識・技能、考え方や学習能力を獲得したり身につけたりするのは大前提  
「人格の完成」「生きる力」は知識・技能・体力面だけで形成されていない。  
徳性や社会性も大きな要素⇒授業で習得すべき 授業で人づくり
- ・生徒指導が機能する授業 「教える」が減り、子どもの動き(活動・思考)が増える授業

### 大学生・院生の感想

- ・教師が「教える」「わからせる」意識の強い授業は、子どもたちの自己決定の場を奪っていることであり、教師は、場の設定(自己決定の場、相手とかかわる場、調べる、考える場など)や思考するための材料の準備等、授業をコーディネートすることが大切だと学びました。



### 仁藤先生ご講話(講師・社会人演習にて)

- ・授業で「学ぶ楽しさ」を体験させていく  
子供はがんばりたいし、できるようになりたい。  
「どうしたらその子の心に火をつけられるのか」子どもを理解し、寄り添う教師の姿勢で確実に子どもは変わる。本気でやってくれる先生は信頼される。子どもは肌で感じる。
- ・子どもが主役となる授業づくり 「子ども自らが問い、みんなで追究し、発見していく授業」  
「なぜ?」「知りたい!」 子ども自らが問う  
子ども一人一人が自分の考えをしっかりとつ→みんなはどういう考えか知りたい  
みんなで追究 「なぜそう考えるの?」「〇〇ってこと?」 語る・聴く  
「わかった!」腑に落ちる 発見したことは身につく 自分の言葉でまとめる



### 社会人・講師の感想

- ・「こんな授業をしてみたい!」と終始思わされるようなお話でした。子供が45分間、目を輝かせながら授業を受けるためには、まずは「なぜ?」「知りたい!」とすることが大切であるということが改めてわかりました。それをもつための「じっくり考える」個人学習が必要になります。まずは一単元の中で2~3回じっくり考えて深める時間を取ることに始めてみようと思います。
- ・板書について悩みがあったのですが、先生の学びの足跡がわかるような、ポイントを押さえた板書はとても勉強になりました。